

山田洋次ライブラリー

写真上は豊中市役所。大阪市を廃止する法定協議会を傍聴していて、中核市の市役所に注目するようになった。大阪市廃止後に「特別区」を設置するというが、その庁舎と比較するためだ。東大阪市と政令指定都市・堺市を訪問したが、人口 40 万の豊中市役所を訪問した。第 1 庁舎のほか、第 2 庁舎と議会棟がある。



市役所近くの岡町図書館 2 階に「山田洋次ライブラリー」がある。市役所より、こちらの方が楽しみだった。部屋の壁一面の棚に、山田洋次監督の作品や映画関係の本が並んでいる。何冊かは読んだこともあるが、初めて出会った本なども多い。ここに通って、じっくり読んでみたいものだ。



毎日新聞 12 月 4 日朝刊の地域面に、「寅さんの魅力たっぷり山田洋次監督が舞台トーク」という記事を掲載されていたので紹介したい。

映画「男はつらいよ」の最新作で 50 作目となる「男はつらいよ お帰り 寅さん」(27 日公開)の先行上映会が先月 29 日、豊中市市立文化芸術センターであった。豊中市名誉市民の山田洋次監督が、浜村淳さんとの対談形式で舞台トークをした。寅さんを演じた故・渥美清さんの思い出やマドンナたちの魅力などで盛り上がり、集まった市民約 900 人が笑いとともに聞き入った。



豊中市出身の山田監督が「僕の生まれた家は昭和の初め、建築が好きな父が設計しました。赤い大きな屋根のある当時としてはモダンな家です。後の方に大事にお住まいいただいたので今も昔のままの形でたっています」と感謝を表した。

続いて浜村さんが質問役として登壇。「寅さんと渥美さんは重なり合うところがある？」と問うと山田監督は「渥美さんの中に寅さんがいるというのかな。渥美さんは非常に頭がよくて、読書家でもあった。でも話すとこれほど楽しい人はいない」と懐かしんだ。

マドンナを最多の 4 回演じたのは、リリー役の浅丘ルリ子さん。「お気に入りだった？」と浜村さんが突っ込むと「寅さんとの関係が一番ユニークだった。(シリーズの) 初めのころは良家のお嬢さんをポーッと見上げるような恋だったのが、ルリ子さん(リリー)は寅と同じような境遇。同棲してもいやらしい感じじゃないんですよね」。

笑いあり涙ありの山田作品。「人間ってどんな人でも、やさしく見ると、おかしいところが見えてくる。まじめな人でもちょっと角度を変えるところけいだったりする。その人を温かく見ているからだと思うんですけどね」と心の内を明かした。

(2019 年 12 月 8 日)